

さいたま市防災カルテ

宮前中学校区



①学区の概況と課題

◆学区の概要

- 【位置】北区の西部に位置し、西区を跨いでいる。
- 【土地利用】学区内には住宅地が広がっており、中央部に鴨川が流れる。
- 【交通】学区の西部には、西大宮バイパスと新大宮バイパスを結ぶ宮前インターがある。南部にJR川越線が走っている。

◆学区の位置



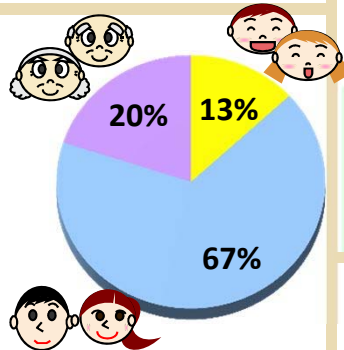
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.2)	6強 (6.3)	6弱 (5.6)			
最小震度	6弱 (5.8)	6弱 (5.8)	5強 (5.2)			
死者	17人 (0.1%)	24人 (0.1%)	0人 (0.0%)			
負傷者	122人 (0.6%)	139人 (0.7%)	9人 (0.0%)			
避難者	2,314人 (12.2%)	3,347人 (17.7%)	57人 (0.3%)			
全壊建物棟数	661棟 (9.9%)	1,014棟 (15.3%)	2棟 (0.0%)			
うち焼失棟数	428棟 (6.4%)	731棟 (11.0%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	909棟 (13.7%)	975棟 (14.7%)	127棟 (1.9%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	347棟	0棟	0棟	0棟	0棟	218棟
床下浸水建物棟数	488棟	0棟	0棟	0棟	0棟	274棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	宮前中学校区	全市平均
総人口	18,893人	
人口等		
0-14歳	2,474人 (13%)	(14%)
15-64歳	12,646人 (67%)	(67%)
65歳以上	3,772人 (20%)	(19%)
人口密度	5,640人/km ²	5,766人/km ²

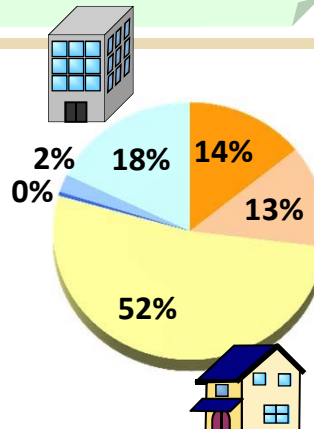


- 【地震】関東平野北西縁断層帯地震の震度が最も大きくなっており、**地区の約30%が全壊・半壊の被害**を受け、**地区の約10%にあたる建物は焼失**する恐れがある。
- 【水害】荒川が氾濫した場合、**地区の10%以上が浸水被害**を受ける。

人口割合は全市平均とほぼ同等である。

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	宮前中学校区	全市平均
総建物棟数	6,646棟	
建物		
木造(昭和46年以前)	936棟 (14%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	857棟 (13%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	3,487棟 (52%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	32棟 (0%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	149棟 (2%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,185棟 (18%)	(21%)



全市平均と比較すると、**新しい木造建物の割合が大きい**。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	宮前中学校、日進北小学校、宮前小学校
一時・広域避難場所	
市・区役所等窓口	
消防署・出張所	
警察署・交番	日進駅前交番
救急病院	
応急給水場所	日進北小学校

◆被害想定結果からわかる主な防災上のポイント

- 【水害】地域に水害の危険性が高いエリアがあり、迅速な情報伝達体制や、自主防災組織等による**安全な避難体制の構築が必要**。
- 【避難】地域内に幹線道路、河川、線路等があるため、**避難場所・避難経路の確認が必要**。

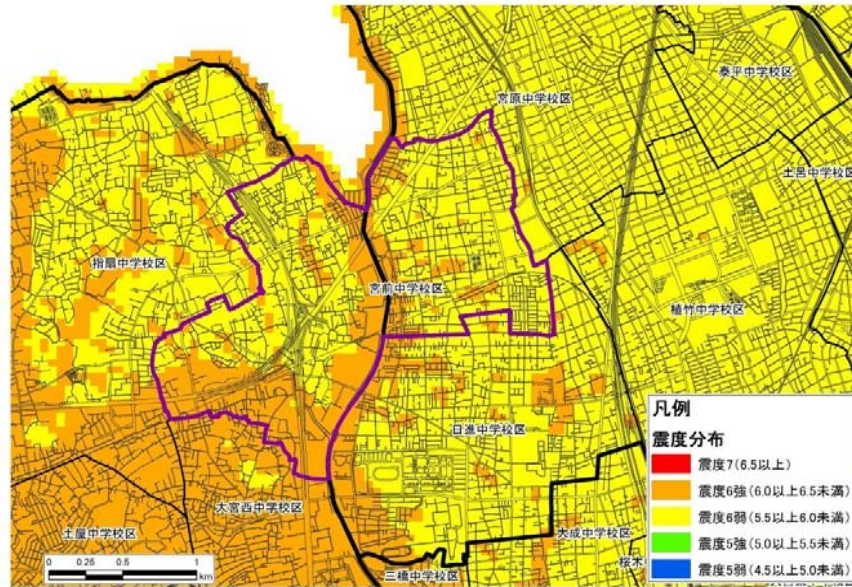
本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみよう。

②さいたま市直下地震の想定 **さいたま市防災カルテ**

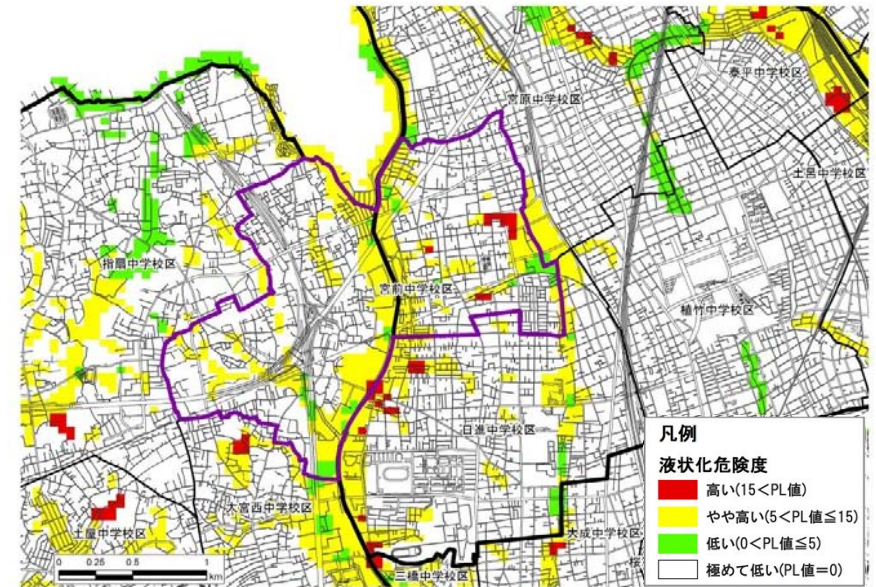
宮前中学校区



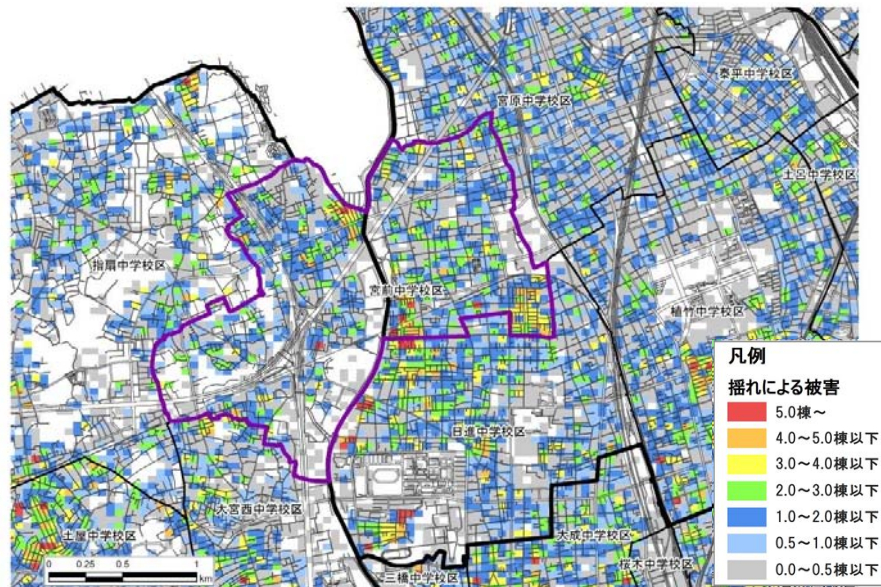
震度分布図



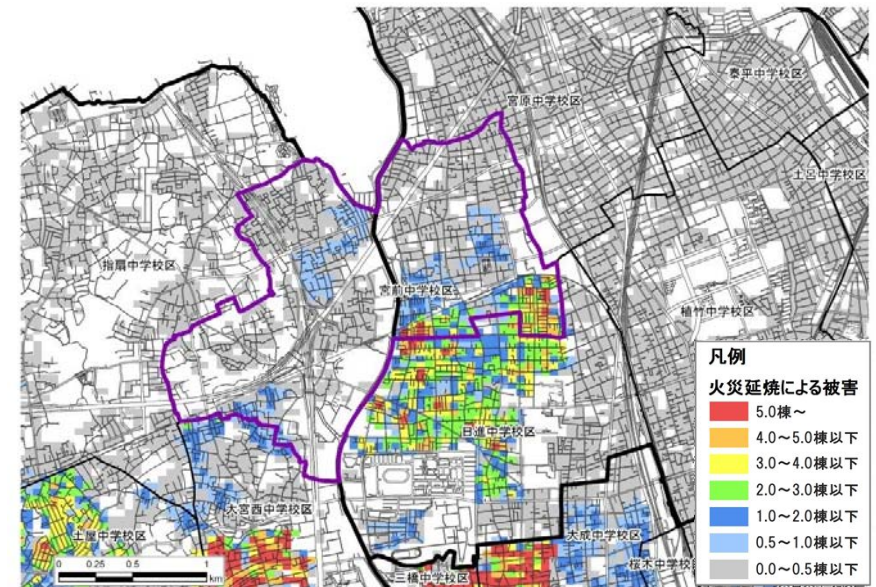
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

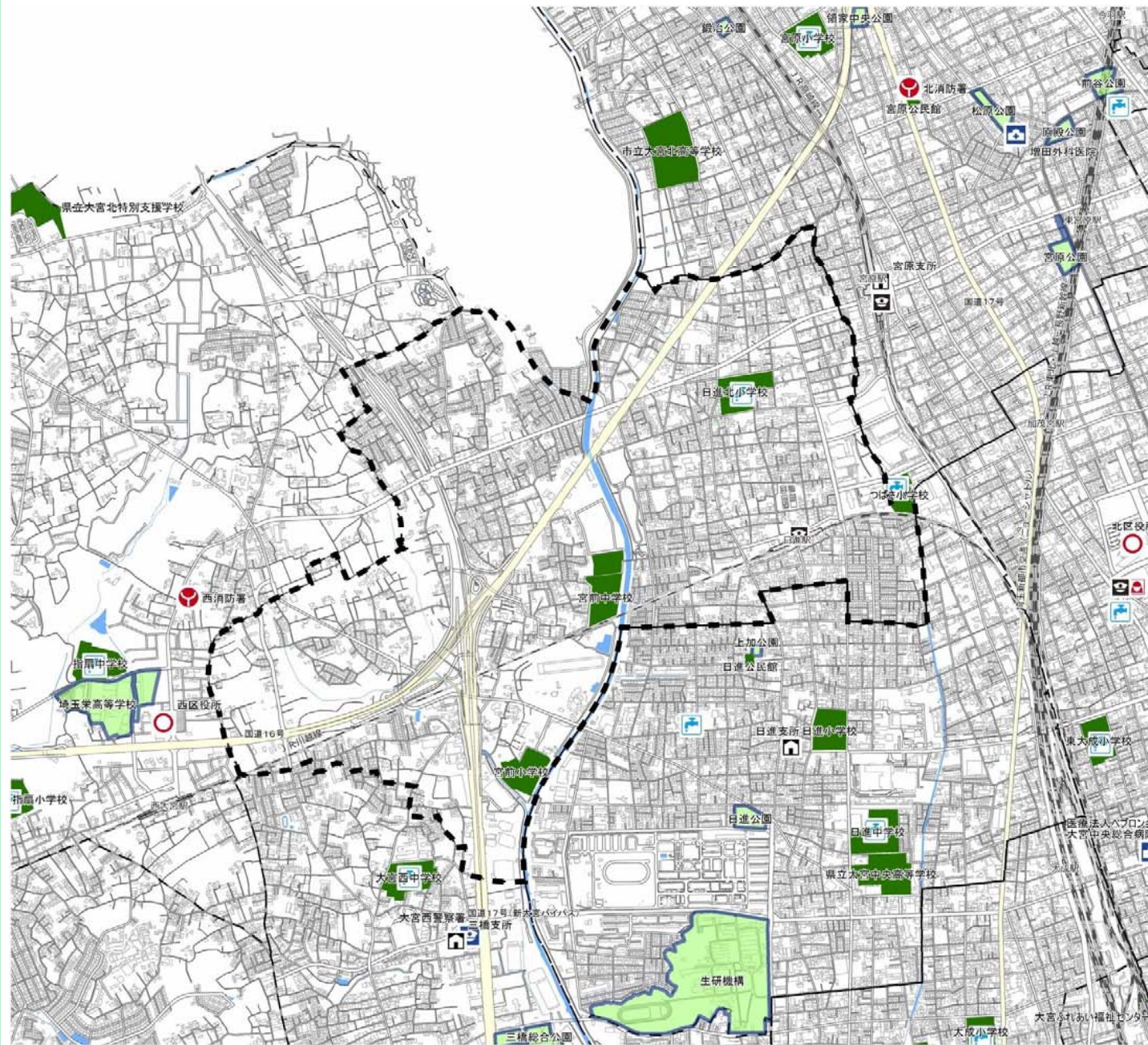


本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみましょう。

③防災マップ

さいたま市防災カルテ

宮前中学校区



凡例

避難場所	消防署
一時避難場所	消防署(出張所)
広域避難場所	警察署
市役所	交番・駐在所
区役所	救急病院
支所・市民の窓口	応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

メモ欄

